

史跡・文化財めぐり ⑥ （絵金の絵）



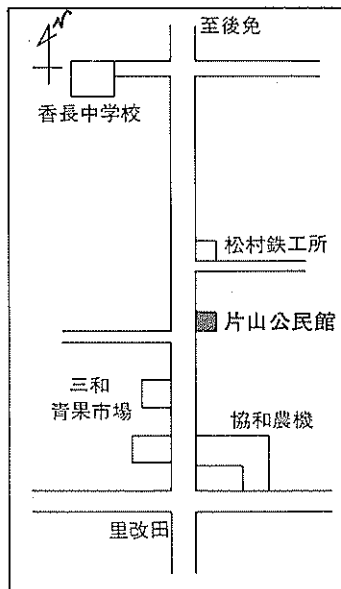
佐倉宗吾子別れ



お軽の身売り



双蝶々曲輪日記



絵金、本名は弘瀬金蔵、画号を桐意といった。幕末から明治初年にかけて活躍した町絵師である。町絵師の金蔵だったので、通称を絵金といった。

17歳の頃江戸に出て、前村洞和について、狩野派の画風を学び、帰って山内家のお抱えの絵師になったが自由奔放な性格のため、町絵師となって一生を終った。

よく神社や絵馬台や、商家の屏風に芝居絵をかいたが、原色の泥絵具を使ってダイナミックに、ほとぼしる鮮血や、物すごい形相の人物をよくし、残酷で衝動的なものもあり、一筆一筆に生命が躍動している。片山公民館で参観できる。

広報 **なんこく**

**10/15** 1975 No.205  
編集・発行／南国市広報委員会